

第4グループ【地域コミュニティ分野】

地域コミュニティ分野

みなとタウンフォーラム
第4グループ

第4グループ[メンバー]

飯沢 未央	飯塚 哲也	小野 直子
小野寺 学	久良木 美奈	椎尾 実和子
平尾 恭一	藤田 理子	宮田 明
吉永 みち子		

※メンバーは五十音順



令和5(2023)年3月23日

提言にあたって

第4グループ【地域コミュニティ分野】

私たち第4グループでは、地域コミュニティには、町会や自治会、マンションといった地域によるつながりと、テーマや目的、趣味や嗜好等で集まるつながりがあることを踏まえ、「時代変化に応じた地域によるつながりの変革（町会・自治会、マンション）」と、「人の縁や共通の目的・テーマでのつながりによる地域の活性化（NPO、ボランティア団体、サークル、サロン）」の2つをテーマに設定し、議論を重ねました。

新型コロナウイルス感染症の拡大は、生活様式と地域コミュニティに大きな影響を与えています。

地域コミュニティにおいては、様々なイベントや親睦活動が大きく制限されました。

一方で、テレワーク環境が整備されたことで、住まいとその地域で過ごす時間が増え、人々の関心が地域に向くようになっていきます。

これまで、地域の住民や商店街等を中心とした町会・自治会が、地域の清掃や安心・安全に関する活動のほか、お祭りなどの季節ごとのイベントをとおして、地域コミュニティの中心的な役割を担ってきました。

しかしながら、町会・自治会では、担い手の高齢化や固定化、住民や住まいの多様化などに加え、コロナ禍の制限もあり、「隣近所の助け合い」がますます難しくなっています。

また、近年は、再開発により大規模なオフィス・マンションが建設されるなど、まちの変化が加速しています。今や区内の約9割の世帯の住まいが共同住宅であり、マンションには、町会・自治会との連携を含めた様々な活動をとおして、地域コミュニティの役割を

分担していくことが期待されています。

そして、区内では、増加傾向にある住民はもとより、多くの在勤者や在学生なども、多様な背景・価値観の下で、様々な形態と目的の地域コミュニティ活動を行っています。

また、地域との関わりを持とうとしている人・企業・団体も増えてきています。

そのような中、区内の地域コミュニティ活動に関する情報が人々に届いていない、参加方法が分からないといった課題や、参加障壁が高い、地域愛などの人々の参加意欲を育む機会が少ないといった課題が見えてきました。

こうした現状や課題を踏まえ、テーマ1では「情報提供態勢の強化」「多様な人材の取り込み」、テーマ2では「多様な主体のつながりの発展・強化」「地域への愛着の醸成」「活動の場所や機会の確保」という施策の方向性を定め、具体的な取組について議論しました。

あわせて、地域課題の多様化、複雑化により、行政の対応範囲が広範に及んでいる中、その解決には、行政（区、職員）、地域コミュニティ活動の各種主体（各種の組織・団体、個人）がパートナーとして相互に連携・協働して取り組む必要があることを再確認し、活動主体を主語とした「参画と協働」についても議論しました。

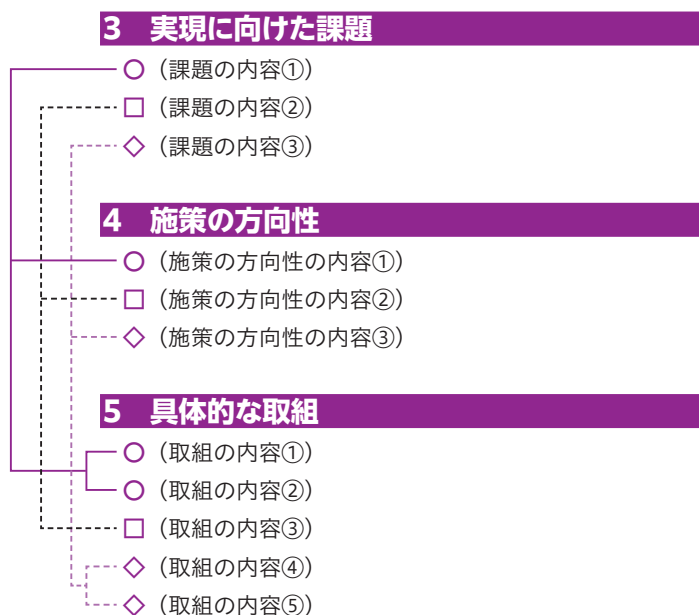
この提言が港区基本計画に反映され、港区に関わるあらゆる人々がつながりを持ち、孤立することなく安心して過ごすことのできる「ふるさと」と思えるまちになっていくことを願っています。

提言の体系

具体的な取組	
【テーマ1】 時代変化に応じた地域によるつながりの変革(町会・自治会、マンション)	<ul style="list-style-type: none"> ● 町会・自治会の情報発信の支援 ● 多様な人材をつなぐための支援
【テーマ2】 人の縁や共通の目的・テーマでのつながりによる地域の活性化(NPO、ボランティア団体、サークル、サロン)	<ul style="list-style-type: none"> ● つながる機会の充実 ● 地域への愛着の醸成 ● 活動の場所や機会の確保

提言書の見方

提言書における、実現に向けた課題や施策の方向性、具体的な取組など、各項目間でつながりがあるものについては、記号(○、□、◇等)によって関連性を明らかにしています。



第1グループ
【街づくり分野】

第2グループ
【防災・生活安全分野】

第3グループ
【環境・リサイクル分野】

第4グループ
【地域コミュニケーション分野】

第5グループ
【国際化・文化分野】

第6グループ
【産業・観光分野】

第7グループ
【子育て・教育分野】

第8グループ
【生涯学習・スポーツ分野】

第9グループ
【福祉・保健分野】

時代変化に応じた地域によるつながりの 変革(町会・自治会、マンション)

1 計画最終年度末(令和8年度末)における港区の将来像

「地域に関わるあらゆる人たちがつながり皆で支え合い、安心して過ごせて、愛着を持てる、ふるさとと思えるまち」

港区は地域ごとに特色を持っており、区民のみならず港区で働く人を含めた港区と関わりを持っている人々が、それぞれの立場を尊重し、つながり、支え合うコミュニティのある、愛着を持てるまちをめざす。

2 踏まえるべき社会変化

再開発の加速

- 港区では再開発に伴うマンション等の増加により、転入者が増加しているが、地域コミュニティへの参画が十分に得られていない。
- 地元密着の商店などが地域コミュニティの一翼を担ってきたが、再開発により、そうした商店が減少している。

新型コロナウイルス感染症の拡大

- 在住者は、地域で過ごす時間が増加したことで、防災や福祉など地域社会への関心が高まっている。
- イベント自粛により、町会・自治会・マンション管理組合の地域活動や親睦活動が制限されている。
- 新しい生活様式により、区外からの通勤者が減少し、地域の企業、在勤者と町会・自治会との接点が減少した。
- SNSやオンラインの利用が活発化し、コミュニケーションの方法が多様化している。
- 経済格差が助長され、生活困窮世帯の増加やそれに伴う人々の孤立が深刻化している。

住民の多様化

- マンションの増加など、まちの構造が変化することで価値観が多様化し、地域コミュニティにおいては、従来のような隣近所の助け合いが難しくなっている。
- 現役世代の単身者、単身の高齢者、高齢者家族、外国人、LGBTQなど、住民や家族構成の多様化が進んでいる。

3 実現に向けた課題

○情報提供態勢の不足

- 町会・自治会の情報が、既存の住民や転入者、在勤者などに届いていない。
- デジタルに馴染みがないことからWEB発信へのハードルが高く、WEBを通じた情報発信がされていないこと。
- 発信されていてもその情報量と内容が十分でないこと。

□参加障壁

- 既存の住民や転入者、在勤者などの中には、町会・自治会に対する固定された先入観を持っている人も多く、また、一部の町会・自治会では新たな担い手に対して構えてしまうことがあり、参加するハードルを上げてしまっている。
- 町会・自治会では後継者不足による担い手の固定化や役員の高齢化が進んでいるため、生活様式の異なる若年層や転入者との接点や意見等をくみ上げる仕組みがない。
- 高齢者や昔から住んでいる人たちを中心とした活動にならざるを得ない。

4 施策の方向性

○情報提供態勢の強化

- 転入時における区からの紹介や町会掲示板等これまでの発信では取り込めなかった既存の住民や転入者、在勤者などの層に対して、町会・自治会から、WEBを通じた情報提供を強化する。

□多様な人材の取り込み

- 町会・自治会・マンション管理組合が若者や現役世代など多様な人材と接点を持てるように支援する。

5 具体的な取組

○町会・自治会の情報発信の支援

- ・インターネットが情報取得の主要手段となっている世代等に対して、ホームページやSNS等で町会・自治会が情報提供できるように支援する。
- ・町会・自治会の魅力あるコンテンツを提供する。

□多様な人材をつなぐための支援

- ・町会・自治会・マンション管理組合と多様な人材が接点を持てる機会・きっかけづくりを支援する。
- ・町会・自治会・マンション管理組合と多様な人々をつなぐ中間支援組織を支援する。
- ・住民同士のつながりの必要性の啓発などマンション内のコミュニティの形成・強化、リーダーの育成、マンション管理組合と町会・自治会をつなぐ人材の育成を支援する。

6 参画と協働の推進

○区民や在勤者のプロボノ

区民・在勤者がそれぞれ仕事などで培った専門的なスキルや知識を生かして、情報提供の強化などに関する区プロジェクトに参加する。

○町会・自治会からの情報提供

町会・自治会から加入についての情報や町会・自治会が行っている活動内容の情報を提供する。

□中間支援

中間支援的な役割を果たしている組織と区が協働する。

人の縁や共通の目的・テーマでのつながりによる地域の活性化(NPO、ボランティア団体、サークル、サロン)

1 計画最終年度末(令和8年度末)における港区の将来像

「港区に関わるあらゆる人が協働することでつながり、誰もが安心して憩える居場所がある包容力のあるまち」

区民のみならず港区で学ぶ人・働く人を含めた港区と関わりを持っている人々が、お互いの立場を理解し、共通の目標や成果に向けて協働しながら、誰にとっても頼れる場所、安心して集える場所、間口が広く敷居が低い場や機会のある包容力のあるまちをめざす。

2 踏まえるべき社会変化

新型コロナウイルス感染症の拡大

- ・ 在住者は、地域で過ごす時間が増加することで、防災や福祉など地域社会への関心が高まっている。
- ・ 新型コロナウイルス感染症拡大防止により、人の縁や共通の目的・テーマでつながった団体の活動も縮小し、対面機会が減少した。
- ・ SNSやオンラインの利用が活発化し、コミュニケーションの方法が多様化している。
- ・ 経済格差が助長され、生活困窮世帯の増加やそれに伴う人々の孤立が深刻化している。

住民・在勤者の多様化

- ・ 現役世代の単身者、単身の高齢者、高齢者家族、外国人、LGBTQなど、住民や家族構成の多様化が進んでいる。
- ・ 港区には多くの企業、大使館が存在し、多様な人々が活動している。
- ・ 住民の多層化により、暮らし方や価値観が多様化し、個別・個人の時代へと変化している。

3 実現に向けた課題

○つながりを作る機会が少ない

- 活動団体等の情報が少なく、可視化されていない。
- 地域と関わりを持ちたいと考えている人や企業・団体もあるが、どのように関わればいいかが分からない。
- マッチングする側、される側、双方の情報不足によって、個人間、団体間、個人と団体がつながらない。

□地域への関心・愛着を深める機会が少ない

- 地域の魅力が十分に発信されておらず、認識されていない。
- 地域への関心・愛着を深める機会が少ないことで、地域のために時間を使うという動機につながらず、地域活動において、住民や在勤者等の能力が十分に活用されていない状況にある。

◇活動の場所や機会の不足

- 区有施設は利用目的が合致しないと利用できない施設が多い。
- 面白い取組をしようとしても集まる場所が不足している。
- 人の縁や共通の目的・テーマでつながっている既存コミュニティの活動は、新規に参加する際のハードルが高く、受け身の人や無理のない範囲で関わってほしいという人が入りやすい場が少ない。

4 施策の方向性

○多様な主体のつながりの発展・強化

NPO・ボランティア団体・サークル・サロン、町会・自治会、企業、区（行政）それぞれが持っている強みを生かせるように、つながりを発展・強化する。

□地域への愛着の醸成

地域や団体の魅力発信、共有をとおして、興味・関心、地域への愛着を引き出し、コミュニティへの参画を促す。

◇活動の場所や機会の確保

区内にある資源を活用し、地域全体で活動の場を創出、確保し、参加しやすい場づくりを支援する。

5 具体的な取組

○つながる機会の充実

- ハブになる人材や団体、手伝ってほしい内容など、マッチングに必要な情報提供を強化し、間口を広げる。
- 地域活動団体、在住者や在勤者をつなぐプラットフォームの活用を促進する。
- NPO、地域活動団体、企業などのつながりを支援する。
- 企業等と協働して、地域活動の可視化につながる情報発信を促進する。

□地域への愛着の醸成

- 地域の人材等を活用して、より多くの在住者・在勤者に地域のことを深く知ってもらう取組を行う。
- 個人の興味・関心、趣味・嗜好を捉え、様々な切り口から地域の魅力を発信する。

◇活動の場所や機会の確保

- 既存の民間施設を地域団体の活動場所として活用できる仕組みをつくる。
- 様々な人に門戸を開き多様な形での関わりが可能な場づくりを支援する。

6 参画と協働の推進

○プラットフォームの活用

地域の人・団体の自主的な行動として、地域活動団体、在住者や在勤者をつなぐプラットフォームを活用する。

○積極的な意見交換

在住者・在勤者等と区が、地域コミュニティの課題について、積極的に意見交換する。

□地域からの魅力発信

地域の人や企業等も積極的に地域の魅力について発信する。

◇参加しやすい団体運営

間口が広く敷居が低い、様々な人が多様な形で関わるができる団体の運営をする。

開催経過

回数	開催日時	内容
第1回	令和4年10月11日(火) 18時30分～20時30分	<ul style="list-style-type: none">事務局紹介グループ会議の進め方について分野における現状と課題について検討テーマの選定リーダー、サブリーダーの選出
第2回	令和4年10月26日(水) 18時30分～20時30分	<ul style="list-style-type: none">第1回グループ会議の振り返り検討テーマ「時代変化に応じた地域によるつながりの変革（町会・自治会、マンション）」に関する議論 将来像（めざすまちの姿）と社会変化の検討 実現に向けた課題と施策の方向性 具体的な取組と区民参画の検討
第3回	令和4年11月16日(水) 18時30分～20時30分	<ul style="list-style-type: none">第2回グループ会議の振り返り検討テーマ「人の縁や共通の目的・テーマでのつながりによる地域の活性化（NPO、ボランティア団体、サークル、サロン）」に関する議論 将来像（めざすまちの姿）と社会変化の検討 実現に向けた課題と施策の方向性 具体的な取組と区民参画の検討
第4回	令和4年11月30日(水) 18時30分～20時30分	<ul style="list-style-type: none">第2回及び第3回目の内容確認についてテーマ「時代変化に応じた地域によるつながりの変革（町会・自治会、マンション）」のまとめ
第5回	令和4年12月7日(水) 18時30分～20時30分	<ul style="list-style-type: none">テーマ「人の縁や共通の目的・テーマでのつながりによる地域の活性化（NPO、ボランティア団体、サークル、サロン）」のまとめ
第6回	令和4年12月21日(水) 18時30分～20時30分	<ul style="list-style-type: none">提言内容の確認 テーマ「時代変化に応じた地域によるつながりの変革（町会・自治会、マンション）」について テーマ「人の縁や共通の目的・テーマでのつながりによる地域の活性化（NPO、ボランティア団体、サークル、サロン）」について
第7回	令和5年1月11日(水) 18時30分～20時30分	<ul style="list-style-type: none">提言内容の最終確認について テーマ「時代変化に応じた地域によるつながりの変革（町会・自治会、マンション）」について テーマ「人の縁や共通の目的・テーマでのつながりによる地域の活性化（NPO、ボランティア団体、サークル、サロン）」について提言式について

第4グループ

地域コミュニティ分野

テーマ1 時代変化に応じた地域によるつながりの変革
(町会・自治会、マンション)

テーマ2 人の縁や共通の目的・テーマでのつながりによる地域の活性化
(NPO、ボランティア団体、サークル、サロン)



令和5年3月23日

テーマ
01

時代変化に応じた地域によるつながりの変革 (町会・自治会、マンション)

第4グループ
地域コミュニティ分野

将来像
FUTURE

地域に関わるあらゆる人たちがつながり
皆で支え合い、安心して過ごせて、愛着を
持てる、ふるさとと思えるまち



社会変化

- ・ 再開発の加速
- ・ 新型コロナウイルス感染症の拡大
- ・ 住民の多様化

方向性

情報提供態勢の強化

多様な人材の取り込み

取組



- ・ ホームページやSNS等で町会・自治会が情報提供
できるよう支援
- ・ 町会・自治会の魅力あるコンテンツの提供



- ・ 多様な人材と町会・自治会・マンション管理組合との
つながりづくり、それを推進する中間支援組織の支援
- ・ マンション内のコミュニティ形成・強化、そのリーダー
育成の支援
- ・ マンション管理組合と町会・自治会をつなぐ
人材育成の支援


参画と協働



- 【区民・在勤者】
- ・ 情報提供の強化などに関する区のプロジェク
トに参加
- 【在住者、在勤者等】
- ・ 加入や活動内容に関する情報の提供

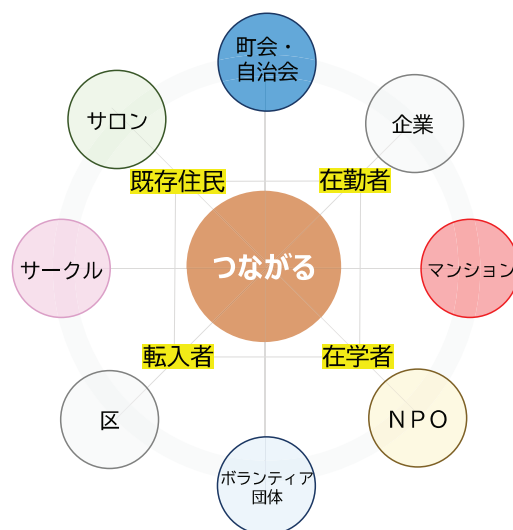
- ・ 中間支援組織と区との協働



<p>将来像 FUTURE</p>	<p>港区に関わるあらゆる人が協働することでつながり、誰もが安心して憩える居場所がある 包容力のあるまち</p>	<p>社会変化</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の拡大 住民の多様化 	
<p>方向性</p>	<p>多様な主体のつながりの発展・強化</p>	<p>地域への愛着の醸成</p>	<p>活動の場所や機会の確保</p>
<p>取組</p> 	<ul style="list-style-type: none"> マッチングに必要な情報提供の強化 地域活動団体、在住者等をつなぐプラットフォームの活用促進 NPO、地域活動団体、企業等のつながりの支援 地域活動の可視化につながる情報発信の促進 	<ul style="list-style-type: none"> 在住者等に地域を知ってもらう取組の充実 様々な切り口からの地域の魅力発信 	<ul style="list-style-type: none"> 既存の民間施設を活用できる仕組みづくり 様々な人に門戸を開き、多様な形で関わることができる場づくりの支援
<p>参画と協働</p> 	<p>【地域の人・団体】</p> <ul style="list-style-type: none"> 多様な主体をつなぐプラットフォームを活用 <p>【在住者、在勤者等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 区と地域コミュニティの課題について積極的に意見交換 	<p>【地域の人・企業等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 積極的な地域の魅力発信 	<p>【地域活動団体】</p> <ul style="list-style-type: none"> 様々な人が多様な形で関わることのできる団体運営

まとめ

港区に関わるあらゆる人々がつながりを持ち、孤立することなく安心して過ごすことのできる「ふるさと」と思えるまちになっていくことを願っています。



会議録

みなとタウンフォーラム 地域コミュニティグループ（第4グループ）

会議録（第1回）

■開催日時・場所・出席者

日時：令和4年10月11日（火）18時30分～20時30分

会場：港区役所9階 911会議室

メンバー：8名（欠席者3名）

事務局：対応部門関係課長4名（芝地区総合支所管理課長、産業・地域振興支援部地域振興課長、芝地区総合支所協働推進課長、赤坂地区総合支所協働推進課長）、企画課グループ担当2名、サポートメンバー3名、委託事業者3名

■次第

（開会）

- 1 事務局紹介
- 2 グループ会議の進め方について
- 3 分野における現状と課題について
- 4 検討テーマの選定
- 5 リーダー、サブリーダーの選出
- 6 その他

（閉会）

■配付資料

資料番号	資料名
1	事務局名簿
2	グループ会議の検討スケジュール
3	提言の構成について
3-2	提言の取りまとめイメージ
3-3	前回みなとタウンフォーラム提言書
4	提言への対応に係る取組状況
5	検討希望テーマ集計結果
6	リーダー、サブリーダーの役割について
参考資料1	港区基本計画（地域コミュニティ分野部分抜粋）
参考資料2	政策9（参画と協働により地域を支える多様なコミュニティをつくる）の各施策における取組状況

■貸与資料

資料番号	資料名
1	港区基本計画・港区実施計画

■会議要旨

(開会)

事務局より、第1回グループ会議開催に当たっての挨拶及び開会宣言を行った。

1 事務局紹介

事務局より、配付資料1に基づき、事務局メンバーの紹介を行った。

2 グループ会議の進め方について

○メンバー自己紹介

各自30秒を目安にメンバーの自己紹介を行った。

○会議の進め方

ファシリテーターより、第1回グループ会議の到達目標（検討テーマの選定、リーダー、サブリーダーの選出）及び発言に当たっての留意事項（他者の意見の尊重等）について説明を行った。

○検討スケジュール

事務局より、配付資料2に基づき、活動日程や内容について説明を行った。

○提言の構成

事務局より、配付資料3、3-2、3-3に基づき、提言の構成について説明を行った。

3 分野における現状と課題について

関係課長より、港区基本計画及び配付資料4に基づき、関連する施策や取組について概要の説明を行った。

(主な意見等)

参加者：本日後半の検討課題になると思うが、メンバーが議論したいと求めているグループテーマとして、「コミュニティ活動の場・機会の確保」が一番であるが、今回提示された資料は、メンバーが議論したいところとずれがあるのではないかと感じる。また、区民協働スペースについては、支所が所管する会議室の一室という位置付けで理解してよいか。

事務局：そのとおり。

参加者：区の職員がその場にいることが前提で、区の企画で区民との協働が絡む場合に会議等で利用できる場所ということか。

事務局：区民と区が協働して行う地域課題解決の場で定義的には合っているが、地域活動登録をした団体で、内容に沿った活動をするのであれば、自由に利用可能。区職員の有無等は要件ではない。

参加者：登録するハードルが高いように感じた。メンバーが、区民協働スペースや区民センターの位置付けが理解できないために、今回議論したいテーマが活動の場に集中したのではないかと感じた。テーマ決めに入る前に、その理解を共有したかったので確認した。

ファシリテーター：今回の質問については、活動の場所があることが確認できたことから、一旦の解決とした。

参加者：マルチスポット（仮称）について、前回提言にも参加されていた方に伺いたい。

参加者：外国人や子育て世代等の地方出身者などの人たちがコミュニティを形成するために相談できる場所がないという問題提起から、観光案内所のような相談所を各支所に設置したらよいのではということでマルチスポットという提言になった。提言への対応として記載され

ている内容については、一から施設をつくるのは難しいということだと理解している。高齢者相談窓口や福祉総合窓口など、窓口の集約化がジャンルごとに存在すれば役に立つのではないかと当時の提言の際にグループで考えていた。

参加者：多くの取組をしているがそれが伝わっていないことが大きな課題なのでは。区民等に伝わらなければ、どんな取組をしても効果はないと思う。あわせて、内容や施策の記載内容が分かりづらい。きめ細かくあらゆる分野に行き渡った取組をしても浸透しないのには、こうした伝わりづらさが背景にあるのでは。パンチのある施策を打てていないと言っていたが、そもそものところで情報提供の点をどのように分析されているかについて伺いたい。

事務局：行政の取組が区民等に届かないことはどの分野でも課題として認識している。昔から行政は広報が下手と言われているが、なかなか脱却できていないのが現状である。パンチのある施策については、皆さんの中でアイデアがあればぜひ御意見としてお伺いしたい。

参加者：なぜ取組が届かないのかを分析しないと素晴らしい取組をしても効果がない。とりわけ、情報を提供するだけであれば、周知という方法でよいが、コミュニティは人が介在している。人が絡まないと地域コミュニティも当然動かないことになる。分野ごとの特性を分析し発信する。それが、パンチある発信力につながるのではないだろうか。

アドバイザー：パンチのある発信力の一つのキーワードになる。これを共有しながら今後の議論で反映できればいいかなと思う。

参加者：情報媒体の特徴や機能に応じた発信の仕方をしなければならない。例えば、ガイドブックなど情報量の多いものは、SNSなどのツールではなく、直接紙媒体を読んで、内容まで理解しなければいけない。行政の職員が説明してくれることはあるが、区民等に興味を抱いてもらうためには、どのような手法を取ればいいのか、こうしたこともテーマにもなるのではないか。

アドバイザー：この後の議論のいい材料になると思う。

4 検討テーマの選定について

事務局より、配付資料5に基づき、参加者へ事前に調査した検討希望テーマの集計結果について説明を行った。集計結果としては、一番多いのは「コミュニティ活動の場、機会の確保」、続いて多いのが「地域交流・連携の促進」「地域活動情報の発信」で同率であった。

集計結果を踏まえて、検討テーマについて議論が行われた。

(主な意見等)

参加者：新たにテーマを設定するのか、あるいは前回計画の見直しをしていくのか。

事務局：これまでの社会変化等を踏まえて、基本計画の施策以下を見直ししていくための提言を行うということ。

参加者：追加でテーマを考えるのか、あるいは、現状課題がある点についてテーマとして選ぶのか。

事務局：現状の政策の範囲内でうまくいっていないところについて意見をいただきたい。今回は、中間の見直しであることから、政策という柱は維持しつつ、その中身について御意見を頂戴したい。

参加者：候補となるテーマの文言は事務局が設定したのか。大きな枠組みから外れない形で、チームの中で自由にテーマを設定していいのか。

事務局：政策の範囲内なら問題ない。

アドバイザー：どのようにテーマを決定していくか。

参加者：20 から 30 くらいでみんなが思っている言葉を付箋に書いてもらうのはどうか。グルーピングしてまとめるといいテーマとなるのではないだろうか。地域コミュニティから外れる文言は出てこないと思うので、まとめればテーマになるのではないだろうか。

参加者：今回特に言いたかったのは、町会が弱体化していること。マンションコミュニティ等の自立化及びマンション自治会等と町会との連携が必要であると考えている。実体験であるが、両者の連携を図っても、町会は活動が衰退しており、マンション側もうまく機能していないため、なかなかうまく行かない。リーダーの育成など、マンションコミュニティの自立化に向けた議論をしたい。

【メンバーの議論したいテーマ一覧】

コミュニティ活動の機会の充実と発信強化/困っている人にも届くコミュニティ/コミュニティをどうつくるか/エリアごとのコミュニティ・アプローチ/コミュニティの自然発生/様々な媒体を活用した地域活動情報の共有、コミュニティの活性化/中間組織への支援/役所の情報の整理と周知・活用/地縁団体である町会・自治会の再生/町会2.0 町会のあり方/興味のない人へのアプローチ/地域交流連携 子ども110番をもっと活用したい/町会と集合住宅との接点をどう構築するか/マンションの自立化とリーダー・担当者の育成

参加者：時代の変化に応じて町会の在り方も変わっている。コミュニティの在り方も変わっている。元は下町であり、商店街が強かったから、町会費は祭礼、防災、防犯等に使われていた。そんな中で、新しい価値をどう生み出すか。今は居酒屋同士のコミュニティが多い。次の町会の在り方を考えた時に町会2.0を考えた。コミュニティ自体は自然発生するものと考えているが興味のない人たちにどのように刺していくかが重要。どのように興味を誘い、知ってもらっていくのが重要。笑顔計測という装置を作り、お笑いとコラボして、笑顔指数が貯まるとまちに還元される仕組みを作った。参加してくれた人はお笑いに興味があって虎ノ門に来てくれた人たちだが、地域に興味を持ち、まちの掃除に来てくれるようになった。このように視点を変えたアプローチがこのとき代には必要だと思う。興味のない人に刺す仕掛けづくり。

参加者：町会とコミュニティという言葉で分けてみた。マンションの自立化もコミュニティに近いように思うが、どうか。

参加者：現行に多い管理組合であれば、それはコミュニティではない。マンションの自立化のためにはコミュニティのリーダーたる人材を育成する必要がある。

参加者：地域交流連携による子ども110番は毛色が違うと思う。町会活動が減退してきたことが子どもの安全にも影響を及ぼしている。町内会でフォローできる体制を作ればという趣旨で子どもを守れる町内会の在り方を考えていきたい。それを具体化して、子ども110番をテーマに挙げた。

参加者：広い意味でのコミュニティの活動ということでよいか。

参加者：集合住宅が90パーセントである中で、港区はコミュニティを醸成しやすいまちになっているのかという疑問がある。

参加者：テーマがぼやけてきた。町内会やコミュニティの定義が漠然としている。具体的なテーマというより入口は広く持って、出口をどこに決めて進めていくかを考えるとよいのでは。

参加者：区の姿勢として、町会・自治会の意見がまちの意見となっている構図にも問題があるので

はないか。もちろん、町会・自治会は必要な組織かもしれないが、それが無いといけないという考え方は、変えていくべきではないか。町会・自治会以外の組織については意見が通りにくい現状がある。町会の在り方や意見を吸い上げる窓口についても考えた方がいいのではないかと考えている。

ファシリテーター：町会、管理組合という言葉になるとややこしいのではないか。暮らしている人の場のことを新たな言葉でやっていくというような話が出ているのではないか。

事務局：今回は、仔細で精密なテーマというよりは、議論の枠組みとなる大きなテーマを決めたい。そうしないと、次回以降、テーマの発散に移ることができない。

ファシリテーター：大きく分けると既存のコミュニティが一つ、新たなコミュニティをどう考えているのかが一つの二つに分かれているように見える。

参加者：この二つがテーマとしていいのではないかと思う。町会の意味をどう捉えているか改めて精査していくこと、コミュニティって何なのか、どうやってつくるのかという意味で。

参加者：コミュニティの定義が難しい。地縁団体としての自治会、町会だけでなく、地域のNPOとか地元の〇〇クラブもコミュニティにあたるが、社会科学的には二つに分かれている。一つに束ねたプラットフォームみたいなものがあるといい。鹿児島県では地縁の団体とそれぞれの地域にあるグループを束ねるような場がある。両方ともコミュニティであり、港区の施策も両方指していると思う。NPOも支援するし、当然に町会や自治会については地域としても大事だから再生していく、両方を考えていかなければならない。どのようにしてトータルのコミュニティができあがっていくのか、それを施策として税金でどのように支援してもらうのが効果的なのかと考えていく必要があると思う。

ファシリテーター：提言に含まれていく内容になっているのでは。リーダー、サブリーダーを立てて話を進めていきたい。既存の、新たななどしか書いていないが、エネルギーが高いように感じているためそのあたりから次回進めていってもよいだろうか。

参加者：地縁によるコミュニティと人によるコミュニティの二つだと思う。この二つを両輪にしながらやっていくと見えてくるのではないだろうか。

ファシリテーター：テーマ名については、事務局及びリーダー、サブリーダーで検討するとして、次回からのディスカッションについては、この括りで議論をする。

5 リーダー、サブリーダーの選出について

グループ会議運営に当たってのリーダー、サブリーダーがメンバーの互選により選出された。リーダー、サブリーダーより、就任挨拶が行われた。

6 その他

事務局より次回の開催日程等の確認を行い、次回までに施策を読み、考えを合わせていくことが確認された。

(閉会)

事務局が第1回グループ会議の閉会を告げ、終了。

以上

みなとタウンフォーラム
地域コミュニティグループ（第4グループ）

会議録（第2回）

■開催日時・場所・出席者

日時：令和4年10月26日（水）18時30分～20時30分

会場：港区役所9階 911会議室

メンバー：5名（欠席者6名）

事務局：対応部門関係課長4名（芝地区総合支所管理課長、芝地区総合支所協働推進課長、赤坂地区総合支所協働推進課長）、企画課グループ担当2名、サポートメンバー3名、委託事業者2名

■次第

（開会）

- 1 前回（第1回グループ会議）の振り返り
- 2 第2回グループ会議の進め方について
- 3 検討テーマに関する議論
 - ・将来像（めざすまちの姿）と社会変化の検討
 - ・実現に向けた課題と施策の方向性
 - ・具体的な取組と区民参画の検討

4 その他

（閉会）

■配付資料

資料番号	資料名
1	第1回グループ会議 会議録
2	第2回グループ会議の進め方

■貸与資料

資料番号	資料名
1	港区基本計画・港区実施計画

■会議要旨

(開会)

リーダーより、第2回グループ会議開催に当たっての挨拶及び開会宣言を行った。また、本日欠席者である参加者2名から事前に意見をもらっている旨の説明をした。

1 前回(第1回グループ会議)の振り返り

事務局より、配付資料1に基づき、前回会議の振り返りと確認を行った。第1回会議録に修正がある場合は、11月2日(水)までに事務局へ連絡するよう案内した。また、リーダーより、前回会議を踏まえ、リーダー、サブリーダー、事務局で検討テーマ名を決めたことについて共有した。

(主な意見等なし)

2 第2回グループ会議の進め方について

ファシリテーターより、配付資料2に基づき、第2回グループ会議の進め方について説明を行った。また、グループ会議の目的・目標・お約束・本日のゴールについて確認した。

(質疑なし)

3 検討テーマ1「時代変化に応じた地域によるつながりの変革について(町会・自治会、マンション)」に関する議論

(1)将来像(めざすまちの姿)と社会変化の検討

ファシリテーターの進行のもと、将来像(めざすまちの姿)と社会変化、実現に向けた課題と施策の方向性、具体的な取組と区民参画について検討を行った。参加者が付箋に書き出した意見について、相互に質問し、意図を確認しながら、意見のグループ分け等を行った。

(主な意見等)

○社会変化について

マンションの増加/老朽化しているマンションが増加/防災への関心の高まり(平成23年以降)/家族構成が変化している/高齢者・独居が多い/単身者の増加/多様性の受け入れ、外国人、LGBT、コロナ/テレワーク/地域社会への関心(町会、子ども食堂)/働き方の変化/リモートとリアルのバランス/小さいコミュニティの重要性/生活圏の変化/地元商店等の撤退

○将来像について

参加者：家庭における問題を地域で解決できたらいい。

参加者：どの世代の家族も皆が支えられ、安心して暮らせる港区がいい。

参加者：人々の豊かなつながりが安全・安心な暮らしになるとよい。

参加者：落ちこぼれが出ない皆が支えるまちがいい。

参加者：シニアの方と子どもとのつながりが持てるまちがよい。(子どもも頼れる場所があるまち)

親子とともに、困っている方へすぐに手を貸せる、頼れる場所がすぐに分かるまち。

参加者：色々な世代が憩える場所、安心できる場所があるといい。

参加者：都心ならではの地産地消、笑えるまち、稼げるまちがいい。

参加者：FC店ではなく、地元にはかないお店、カフェバーがあるまちがいい。

(2) 実現に向けた課題と施策の方向性について

参加者：まちに関わる上でのハードルが高い。非営利団体であるにもかかわらず、区に認められている団体でないと補助等の対象にならないことからイベント等への参入障壁が高い。間に入る中間組織は増えればいいと思うし、この組織同士の横のつながりも増えればいい。

参加者：町会・自治会について、情報提供が不足している。

参加者：高齢者を支える仕組みが弱い。中でも、独居の方へのサポートが特に弱い。

参加者：地元の価値（人・物・場所）を理解して、それを発信していくことが弱い。声の大きい方、お金がある方の意見だけではなく、もっと広く耳を傾けるべきではないか。

参加者：地域防災拠点の機能の危機があると思う。「防災」が分かりやすい例で、町会・自治会がなくなると大規模災害時に対応できなくなることから、地域のつながりを作っておくことは重要。

参加者：区のマンパワー、人員不足があると思う。そのため、地域の連携できる人（動ける人）と区がどう連携できるかは常に考える必要がある。まずは、区と区民や在勤者等が情報共有を密にできる関係づくりの構築が必要ではないか。

参加者：防犯レベルの低さがある。親、子どもがすぐに避難できるような地域のつながりが必要ではないか。

参加者：各施策を実施した後の評価ができていないと感じる。

ファシリテーター：出た意見を端的にまとめると、「居場所・生活拠点」、「非常時のコミュニティ（共助によるもの）」、「情報提供の不足」の分類に分けられると思うがいかがか。

参加者：町会ごとで見るとではなく、もっと面で見ることが必要がある。

ファシリテーター：課題解決に向けた方向性の検討に当たっては、「情報提供の不足」、「多様な人が取り込めていない」、「住む人の場づくり、働く人の場づくりが今はない」とテーマが分類されるので、このテーマで次の議論に進むこととする。

(3) 具体的な取組・区民参画について

（文末括弧は、「誰」と参画や協働ができるか。）

参加者：町会・自治会の情報提供ページのリニューアルをするべき。（区民）

参加者：現役世代がアクセス・コンタクトしやすいプラットフォーム対応。（LINE、インスタ等）（区民）

参加者：区民と在勤者のプロボノを実施してはどうか。（区民）

参加者：ホームページのプロトタイプを試用してはどうか。（区民）

参加者：町会・自治会側からコンテンツを提供すること。（区民）

参加者：まずは、取り組みやすい防災イベントに参加してもらえる仕掛けを考えるのはどうか。（区民）

参加者：各年齢・世代にあった情報発信方法を考えるべきだと思う。（区民）

参加者：地域の人が色々とアクセスできるコミュニティの居場所があるとよい。（学校・施設・企業）

参加者：現役世代を巻き込み、新しいコミュニティをつくる。（マンション同士で協力する、防災訓練をする等）

参加者：他地域・他区とのつながりが持てるようなコミュニティの育成も必要。

参加者：マンションコミュニティの強化とリーダーの育成は絶対に必要。若い人にリーダー、参加者になってもらうには、何かしらのメリットを提供しないと来てくれない。

参加者：教育機関を絡めた地域愛の育み（学校）

参加者：ピアツツァ（地域SNSアプリ）の推進。

参加者：まちの担い手、中間組織を増やしていけたらよい。

参加者：勤務先で企画したイベントに来ていただいた方が手掛けたプロジェクトで、私立公民館のような「喫茶ランドリー」というものがある。誰でも来た人が好きな活動ができる場所となっており、こんな場所があったらいいと思う。

参加者：2代目、3代目等の若旦那が次の地域の担い手になるので、この人たちとどうつながるかみたいな部分もあると思う。

参加者：先日、高輪ゲートウェイフェストに参加したが、色々な人が色々な方向を向いていたが、同じ場にいることがおもしろかった。

ファシリテーター：今日、6段階を通して検討することができた。これを基に、検討テーマ1「時代変化に応じた地域によるつながりの変革について（町会・自治会、マンション）」について、提言としてまとめていく。また、次回の第3回では、検討テーマ2「人の縁や共通の目的・テーマでのつながりによる地域の活性化について（NPO、ボランティア団体、サークル、サロン）」に関して議論をする。

事務局：今日の議論の中で、検討テーマ2についての話も出ていたが、今後、重なり合う部分は整理していく。

4 その他

事務局より次回の開催日程等の確認を行った。また、第3回のみ、ファシリテーターが変更になることも案内した。

(閉会)

リーダーが第2回グループ会議の閉会を告げ、終了。

以上

みなとタウンフォーラム
地域コミュニティグループ（第4グループ）

会議録（第3回）

■開催日時・場所・出席者

日時：令和4年11月16日（水）18時30分～20時30分

会場：港区役所9階 研修室

メンバー：7名（欠席者4名）

事務局：対応部門関係課長3名（芝地区総合支所管理課長、芝地区総合支所協働推進課長、赤坂地区総合支所協働推進課長）、企画課グループ担当2名、サポートメンバー3名、委託事業者2名

■次第

（開会）

- 1 前回（第2回グループ会議）の振り返り
- 2 第3回グループ会議の進め方について
- 3 検討テーマに関する議論
 - ・将来像（めざすまちの姿）と社会変化の検討
 - ・実現に向けた課題と施策の方向性
 - ・具体的な取組と区民参画の検討

4 その他

（閉会）

■配付資料

資料番号	資料名
1	第2回グループ会議 会議録
2	第3回グループ会議の進め方

■貸与資料

資料番号	資料名
1	港区基本計画・港区実施計画

■会議要旨

(開会)

リーダーより第3回グループ会議開催に当たっての挨拶及び開会宣言を行った。また、事務局より、本日欠席者である参加者1名から事前に意見をもらっている旨の説明をした。

1 前回(第2回グループ会議)の振り返り

事務局より、配付資料1に基づき、前回会議の振り返りと確認を行った。第2回会議録に修正がある場合は、11月22日(火)までに事務局へ連絡するよう案内した。

(主な意見等なし)

2 第3回グループ会議の進め方について

ファシリテーターより、配付資料2に基づき、第3回グループ会議の進め方について説明を行った。また、グループ会議の目的・目標・お約束・本日のゴールについて確認した。

3 検討テーマ2「人の縁や共通の目的・テーマでのつながりによる地域の活性化について(NPO、ボランティア団体、サークル、サロン)」に関する議論

(1) 将来像(めざすまちの姿)と社会変化の検討

ファシリテーターの進行のもと、将来像(めざすまちの姿)と社会変化について追加の意見出しと、実現に向けた課題と施策の方向性、具体的な取組と区民参画について検討を行った。参加者が付箋に書き出した意見について、相互に質問し、意図を確認しながら、意見のグループ分け等を行った。

(主な意見等)

○社会変化について

参加者：オンライン化(テレワーク等)やYouTube等の利用が増加し、オンラインとリアルの間でギャップが生まれている中で、共存していきたい。

○将来像について

参加者：新しく入ってきた住民を受け入れる雰囲気があるとよい。

参加者：世代を問わず創造を実現できる場、まちがあるとよい。

参加者：ふるさとと呼べるまちにしたい。

(2) 実現に向けた課題と施策の方向性について

参加者：カテゴリー同士の関係が希薄。

参加者：〇〇カフェ等面白い場はあるが、開催場所がなくて困っている。オープンで参加しやすく人も集まるものの、町会の会館や公共施設が使えないとそもそも活動する場所がない。

参加者：目的を持たないと借りることができない施設が多い。また施設の予約が難しい。いきいきプラザなどは自由に使用できるが、飽和状態といった課題もある。

参加者：それだけ活発に使われているということだが、新しい活動をしたい人が使うことができない。利用条件を緩和すると、今度は、これまで定期的に利用していた人たちが使えなくなる課題がある。

参加者：様々な団体や催しがあるが知られていない。周知の方法について課題があると感じる。

参加者：区等が実施する情報は発信されやすいが、民間や自主的に行う活動は発信されにくい状況となっている。

参加者：どこの団体が何をやっているのか分かりにくい。

参加者：郷土愛を育みにくいと感じている。港区に生まれ育った人は少ない。子どもを介した活動等でつながる機会がある人もいれば、地域との関係性を作りづらい人もいる。港区愛を育みづらい。港区を故郷と思える何かがあるほしい。

参加者：子どもに対し、港区を故郷と思ってもらいたいと持っている親も少なくない。運河を綺麗にする活動やカヌーを通じて故郷の情景として残るような活動を行っている地域もある。

参加者：在勤していても区と関係も持ちづらい。

参加者：サークル等が多いが壁を感じている。参加するのにエネルギーが必要。

参加者：リーダーが育ち、サークル等が多くなることも壁を感じる原因の一つとして考えられる。リーダーの育成と同時にメンバーシップの育成も必要になっている。

参加者：オンライン化も普及しており、今後は、施設などのハードにこだわらない方法もあるかもしれない。

⇒参加者からの意見を集約し、1「つながりの不足」、2「地域に対する愛着の不足」、3「団体に関する情報不足」、4「施設不足（ハードに限らず）」、5「(参加・交流の)ハードルが高い」、6「新たな視点での取組」のグループに分けて次の検討へつなげた。

(3) 具体的な取組・区民参画について 括弧内の数字は前記のグループ分けの数字を記述

参加者：区民が講師となる大人向けツアーや小学校の課外活動のようなイベントに参加したい。新たなつながりの創出もできる。(2)

参加者：地域の活動について、学校（学生を含む）や企業との連携ができるとよい。(2)

参加者：それぞれの団体で活動は行っているものの、そうした活動など団体に関する情報不足を感じる。

参加者：在勤者、学生、企業のつながり不足を感じている。地域で活動している住民とそうした属性の人々が同じ場所にいるのに違う生活をしている印象。ただの通勤先で終わらない活動につなげられるといい。(1、2)

参加者：複数のコミュニティに属する人がいることで、知らない情報やコミュニティにつながりが増える。

参加者：いい集まりを人や企業に協力してもらって発信していく方法。発信力のある人から発信してもらおうがいい。(6)

参加者：区の職員が出前講座のような場で説明する機会があるといい。(3)

参加者：どう発信したら情報が伝わるのかが世代によって異なる。自分が所属する以外の情報収集について理解するのが難しいと感じている。(3)

参加者：区からイベントを紹介して、つながりのない人への参加を促す方法もある。

参加者：集めることが目的になるのか、目的によって情報発信の方法が異なる。小さなコミュニティがたくさんあってもいいと思う。ふれあいまつりの集客数は今年、少なかったように思うが、地域を知ってもらうにはいい集客数だったと思う。手作り感もいい。(1)

事務局：ふれあいまつりは3年ぶりの開催だった。例年、参加団体は抽選制としているが、今回については、3年前に参加した団体に参加を呼びかけた。どこにターゲットを置くかといっ

た話題があったが、地域で活動されている人が手作りで参加することがコンセプトになっている。

参加者：施設ベースや、子ども、大人、高齢といった情報発信の方法ではなく、関心（好きなこと等）ベースの情報を発信する方が、参加したい、つながりたい気持ちが高まるのではないか。（3）

参加者：趣味からイベントに参加しそれが地域の清掃活動につながった例がある。趣味嗜好からの課題解決につながるという。（6）

参加者：企業に区民が利用できる施設があるが、周知しようとするとうり目的と取られてしまうことがある。企業の社会貢献活動に注目が置かれているため、企業からの地域貢献活動や区民が利用できる施設の周知がされるといい。その代わりに区のホームページにおいて、広報活動ができる等の仕組みがあると、企業を巻き込み、区役所、区民のつながりにつながっていくのではないか。企業側が利益を上げながら地域貢献していくために企業と区がどのようにつながることができるかを考えることで、相乗効果が生まれるのではないだろうか（1）

参加者：区の施設（小中学校）や知られていない事業をどう活用していくか。（3）

参加者：区の施設だと参加しにくいですが、今ある集まり（ママ友、自習室等）の場に区のサービスがあり、相談と問題解決につながる場所ができるという。（4）

参加者：区役所職員の人手不足。施策ができてでもそれを評価できていないように思う。現役を退いた住民（高齢者の方等）の中で地域に還元したいと思っている人達を活用できる仕組みがあるといいと思う。（5）

4 その他

事務局より次回の開催日程等の確認を行った。

（閉会）

リーダーより第3回グループ会議の閉会を告げ、終了。

以上

みなとタウンフォーラム
地域コミュニティグループ（第4グループ）

会議録（第4回）

■開催日時・場所・出席者

日 時：令和4年11月30日（水）18時30分～20時30分

会 場：港区役所9階 研修室

メンバー：5名（うち1名はオンライン、欠席者5名）

事務局：対応部門関係課長2名（芝地区総合支所管理課長、赤坂地区総合支所協働推進課長）、企画課グループ担当2名、サポートメンバー3名、委託事業者2名

■次第

（開会）

1 第4回グループ会議の進め方について

2 第2回及び第3回目の内容確認について

3 テーマ1「時代変化に応じた地域によるつながりの変革について（町会・自治会、マンション）」
のまとめ

4 その他

（閉会）

■配付資料

資料番号	資料名
1	第3回グループ会議 会議録
2	第4回グループ会議の進め方
3	討議内容とりまとめシート（テーマ1）
3-2	討議内容とりまとめシート（テーマ2）
参考資料	前回みなとタウンフォーラム提言書（地域コミュニティ分野）

■貸与資料

資料番号	資料名
1	港区基本計画・港区実施計画

■会議要旨

(開会)

リーダーより、第4回グループ会議開催に当たっての挨拶及び開会宣言を行った。また、事務局より、本日欠席者である参加者1名から事前に意見書をもらっている旨、メンバー1名より本グループの辞退の申出があった旨の説明をした。

1 前回(第3回グループ会議)の振り返り

第3回会議録に修正がある場合は、12月7日(水)までに事務局へ連絡するよう案内した。
(主な意見等なし)

2 第4回グループ会議の進め方について

ファシリテーターより、配付資料2に基づき、第4回グループ会議の進め方について説明を行った。また、グループ会議の目的・目標・約束・本日のゴールについて確認した。
(質疑なし)

3 第2回及び第3回目の内容確認について

- 配付資料3及び3-2を用いて、テーマ1、テーマ2の整理
- 第2回グループ会議で出た内容の確認

4 テーマ1「時代変化に応じた地域によるつながりの変革について(町会・自治会、マンション)」のまとめ

配付資料3を用いて、第2回グループ会議の内容の確認を行った。

○テーマ1「時代変化に応じた地域によるつながりの変革について(町会・自治会、マンション)」のまとめ
(全体を見て)

参加者：住む人の場づくり、働く人の場づくりは、テーマ2だと思う。しかし、具体的な取組の中で、「防災地域情報」があるが、これは、テーマ1の括りにするとして残しておきたい。

参加者：実現に向けた課題、「参加のハードル」の『まちに関わる上での行政のハードルが高い』については、中間組織的な内容なのでテーマ2だと思う。

参加者：(了承)

○めざすべきまちの姿(将来像)

参加者：前提として確認だが、テーマ1、2において、めざすべきまちの姿(将来像)、踏まえるべき社会変化で共通している部分があるがこれはどうまとめるのか。

事務局：本テーマの属性上、明確に分けるのは難しいと思うが、可能な限り、それぞれのテーマに特化したものをそれぞれ上げることが望ましい。

事務局：テーマ1に入っているものの中で、抜けがないかは集中的に見てほしい。

参加者：例えば、テーマ1、テーマ2に「マンションの増加」とあるが、テーマ2の「マンションの増加」がその下にどのようにぶら下がるか分からない。ノイズになると思う。

ファシリテーター：本日は、テーマ1を考えるので、テーマ2を考えるとまた、違うものになるのかもしれない。次回検討し、最終的に調整する形で今回はテーマ1に特化して議論していただきたい。

参加者：テーマ1で「地域（ふるさと）」とあるが、地域ごとにより特色が異なり、地域のイメージが全然違う。

参加者：ふるさとはとても良いと思う。キーワードとして使いたい。

参加者：「やさしい」・「支え合う」・「安心」・「思い出・記憶が残る」・「つながり」を包含してほしい。

参加者：在勤者（港区に関わりのある人）でも、第二のふるさとのイメージがもてるとよいと思う。

ファシリテーター：仮置きで、「皆が支えあう、手を貸しあえる、港区に関わる人たちがふるさとと思える」とする。

○踏まえるべき社会変化

参加者：平成23年以降、防災への関心が高まったことは社会変化としてある。（災害、コロナ）

参加者：社会変化をカテゴライズした方がよいのではないか。

参加者：マンションの増加は確実。（建物やまちの変化）

参加者：多様性の受入れも大きな変化。（外国人、LGBTQ+）

参加者：コミュニケーションの変化（格差、希薄化）が生まれてきた。

参加者：コロナにおいて、在宅することが増え、結果として家族間のコミュニケーションは増えた。

参加者：家族間のコミュニケーションは濃くなったが、それ以外の方とコミュニケーションを取ることが少なくなり蝸壺化しているように思える。

参加者：赤坂、青山、三田は、対外部を強く意識している印象。麻布、高輪等は、昔ながらで商店等があるが、その担い手が減少している。

参加者：青山は海外ブランドが多く進出しているが、こういった人や企業は日本のものなのか。

ファシリテーター：「まちの再開発」が、加速したことなのではないか。

参加者：高級マンション等の開発により地元の商店が減った。まちの再開発は影響になりうることからまちの変化は、大きな社会変化ではないか。

参加者：駅周辺のまちづくりの仕事をしているので共感できる部分がある。

参加者：「新しいふるさとをつくる」ということ。

○実現に向けた課題、施策の方向性の縦列部分について

参加者：地域により特色が大きくあること。

参加者：情報提供の不足はどこ地域にも当てはまると思う。

参加者：町会・自治会についての不足は、情報ツール（方法）が不足している。発信の方法が少ない。

参加者：町会の個人情報については、その町会の姿勢もあるのではないか。

参加者：地域社会に関する意識は高まっているのだから、地元の町会に興味を持った方が区を経由せずにまち会・自治会に連絡できる状態を作った方が良い。

参加者：区内には200以上の町会があるが、ホームページがあるのは、20組織程度。その中でも、開示している情報は町会・自治会によって差がある。

参加者：量（町会におけるホームページ保有数）、質（提供されている内容）にも差がある。方法としては、ネット上において、サイトを活用したスマートに届く方法。

○具体的な取組

≪情報の不足の取組≫

・情報提供の強化

参加者：町会・自治会においては、提供できる内容について考える。ただし、新たにホームページを作成するのは難しいので、共通の構成はできる人や区の方で提供すべきでは。（区には、ホームページで掲載する箱を作ってほしい。）

参加者：ホームページの掲載情報については、町会・自治会において選ぶため、個人情報の意図しない流出は防げる。

参加者：シニア世代が運営し、担い手不足が現状なので、在住・在勤の現役世代を活用すべき（プロボノ等）。

参加者：いろいろやっても、評価（実際の区民の体感なども含めて）がないので、議論ができない。プロボノで評価をしてもらえるかもしれないのでは。

≪参加のハードルの取組≫

ファシリテーター：若い人の意見が十分に拾えていないことについて、意見はあるか。

参加者：若い人は忙しい。イベントへの参加の機会がある、若い人も参加する。世代の違い。

参加者：多様な人（若い人、シニア、外国人、LGBTQ+）の取り込み。

参加者：コミュニケーション能力によらず、参加したり接点を持てたりする機会（イベント）をつくる。

参加者：「教育機関を絡めた地域愛のはぐくみ」は、町会が関心を待つことでもあるため、テーマ1に残していいと思う。

参加者：次の担い手となる2代目、若旦那の事業継承とコミュニティは、テーマ2だと思う。

ファシリテーター：どうやって取り込むかということは、中間支援組織の活用・つながりなどはどうか。

参加者：マンション住人とともに支えあえる（潜在力を高める）、顔のつながる機会、ともに考える機会を増やすべき。

≪（今はない）住む人の場づくり、働く人の場づくりの取組≫

ファシリテーター：これは、テーマ2でよいか

参加者：（了承）

ファシリテーター：課題について、全体に関する部分なので、提言の前文の要素として入れてはどうか。

参加者：「区の職員がルンルンしていない」とかを前文にうまく入れるのは難しい。

参加者：「情報提供の不足」のところに、「地域の魅力の発信」を入れたい。

5 その他

事務局より次回の開催日程等の確認を行った。また、次回はテーマ2に関する内容の確認と整理を行うことを確認した。

（閉会）

リーダーより第4回グループ会議の閉会を告げ、終了。

以上

みなとタウンフォーラム
地域コミュニティグループ（第4グループ）

会議録（第5回）

■開催日時・場所・出席者

日時：令和4年12月7日（水）18時30分～20時30分

会場：港区役所9階 研修室

メンバー：6名（うち1名はオンライン、欠席者4名）

事務局：対応部門関係課長2名（芝地区総合支所管理課長、芝地区総合支所協働推進課長）、企画課グループ担当2名、サポートメンバー3名、委託事業者2名

■次第

（開会）

- 1 第5回グループ会議の進め方について
- 2 テーマ2「人の縁や共通の目的・テーマでのつながりによる地域の活性化について（NPO、ボランティア団体、サークル、サロン）」のまとめ
- 3 その他

（閉会）

■配付資料

資料番号	資料名
1	第4回グループ会議 会議録
2	第5回グループ会議の進め方
3	討議内容とりまとめシート（テーマ2）

■貸与資料

資料番号	資料名
1	港区基本計画・港区実施計画

■会議要旨

(開会)

リーダーより、第5回グループ会議開催に当たっての挨拶及び開会宣言を行った。

1 前回(第4回グループ会議)の振り返り

第4回会議録に修正がある場合は、12月14日(水)までに事務局へ連絡するよう案内した。

(主な意見等なし)

2 第5回グループ会議の進め方について

ファシリテーターより、配付資料2に基づき、第5回グループ会議の進め方について説明を行った。また、グループ会議の目的・目標・約束・本日のゴールについて確認した。

(質疑なし)

3 テーマ2「人の縁や共有の目的・テーマでのつながりによる地域の活性化について(NPO、ボランティア団体、サークル、サロン)」のまとめ

配付資料3を用いて、第3回グループ会議の内容確認を行った。

○めざすべきまちの姿(将来像)

参加者：在勤と在住の協働は意識していきたい。成果を出す過程でコミュニケーションがあるのではないかと。

参加者：案内先が分かった上で困っている方にすぐ手を貸せる、指先案内が分かりやすいまちになるといい。様々な世代が安心できる居場所があること、そこに相談できる関係性があり、頼れる場所にもなるといい。

参加者：区と在勤者(企業、NPO等も含む)、在住者がまちづくりをしていく上でともに携わっていく姿が理想だと思う。施策レベルで考えるとこの話し合いも含まれると考えられるが、具体的に特定の目標や、成果に向けて協働できるまちがいい。

参加者：港区としての特色や魅力が出せるまちについては重要だと思う。企業が多いことも魅力の一つ。

参加者：包容力のようなものだと思う。参加しやすいコミュニティがあることが一つの目標になるのではないかと。例えば〇〇カフェのように世代などにかかわらず、誰でもつながれるような場があればいいと思う。誰でも参加できて、落ちこぼれる人が出ない方がいい。

参加者：既存団体に参加しづらい壁がある。今ある団体から外れている人(つながりが乏しい人)とどうつながるかが問題。積極的なNPO団体等は特色を持たせるため間口が狭くなる。顔がつながって間口が広く、敷居の低いコミュニケーションの場や機会があるといい。

○踏まえるべき社会変化

参加者：在宅勤務等が増加することで、地域に目を向ける余裕が出た。

参加者：稼働団体の活動が縮小することで、対面機会が減少し、孤立している人の存在がある。

参加者：地域によって生活や住む人の構成が変わる。高級マンションがあれば中低層マンションもあり、転入者増も相まって、住民の多層化が加速している。(例えば港区外で稼いで港区に住む人、好きなことのために働き方を制限している人、子育て層や高齢者層には時間をお

金に変える人、稼げなくて生活がひっ迫している人等) 環境に合わせて変化が必要。港区にいる中間層は他区と比べると高い中間層であると想像できる。

コーディネーター：経済的な格差が多層化しており、ますます暮らし方の選択に多様性が出ていて、社会変化として受け取っている。

参加者：孤立という言葉は残してほしい。関わりが少なくなったということを将来像につなげたい。全世代に孤立はあるように思う。

参加者：新しい人の流入について、港区は富裕層が多く、時間的にも経済的にも余裕があるからNPO法人等の活動ができるが、働くことに精一杯でコミュニティについて考える時間がない層も一定数存在している。相談する先もなく、安心して過ごせる時間もない。どうやって救い上げたらいいのか。

○実現に向けた課題、施策の方向性の縦列部分について

《つながり不足》

・つながりの強化

参加者：地域によって状況が異なることが前提。企業から地域につながるにはどのようにしたらいいのかと相談を受ける。在住者と在勤者の間に入って地域の機会に参加できるよう意識している。NPO法人、ボランティア団体、サークル、サロンと町会、区の連携の強化が(施策の方向性) だと思う。その中でまちに入りづらい気持ちを持つ人が存在すること、リソースはあるがマッチングが難しいといった課題がある。中間組織をもっと活用して、マッチングの可能性や施設の活用支援もできるようになるのではないかと。(協働)

参加者：テーマ1のとき、区で催しをしても住民が見つけ出すことができない、指差し案内を作りたいと意見が出ている。情報が取り出せる場が中間組織にもあるといい。

参加者：マッチングする人も、マッチ先も分からない。双方にとってマッチングするための情報が足りないことが課題。区の人をタレント化するという意見もあったが、区のホームページ等にハブになる人材、団体や手伝ってほしいこと等募集情報が共有されるシステムができればよい。その間口が広がればよりよいし、募集先が明確化していればつながりが強くなるし、活躍できる人が増えるように思う。ただし、報酬がなくても参加してくれるだけの魅力がなければいけない。

参加者：どういうスキルを持っている人がリーダーになってつながりを強化していけばいいのか。

参加者：それぞれの強みがあるため、何を地域に寄与できるか、強みをどう生かすかをよく意識している。

参加者：同じ興味を持ったコミュニティ同士をつなげたり、港区に眠っている素晴らしい方と若者をつなげたりしたいが、なかなか見つからない。情報があるといい。⇒GRANTの活用・認知度アップ。

《地域に対する愛着の不足の取組》

・地域に対する愛着の醸成

参加者：誇れるところがないというのが最初の意見だった。魅力があると認識できたら、地域に愛着を持って発信できる。港区のいいところを再発見できる施策はあるのか。

事務局：各地区の地区版計画書に基づき、区民参画で、地域の魅力を発信するようなイベントを実施している。参加者の固定化等が課題。区民に向けては、ホームページやSNS、広報みなど、掲示板等で発信している。

参加者：生産労働人口は自分や家族に対して活動をしている人が多いため、能力などが地域のために活用されていない。愛着や興味、関心、動機がないからだと思う。愛着が根源にあってNPO法人等の団体活動や協働につながっているように思う。

参加者：体験できたこと、貢献した手ごたえ等の経験値が大切で、次の愛着につながると思う。その気持ちや機会の共有及び発信できるといい。ありがとう運動などあるといいのかもしれない。(取組、協働)

参加者：在勤の方にとっても、子どもたちにとっても帰れる場所を目指したい。

参加者：趣味嗜好からまちづくりに関わる人もいるが、まずは知るための間口をどう広げるかが重要。

コーディネーター：これらの議論から郷土愛の醸成はつながりの強化に含まれるのではないかな。

(この意見に賛成する意見と、愛着の醸成は物や風景も含むため、つながりの強化には含まれないといった意見が出た。)

コーディネーター：【団体に関する情報不足】(団体に関する情報提供の強化)もつながりの強化に含まれるのではないかな。また【施設不足(ハードに限らず)】(活動の場づくり・確保)についてはつながりの強化の施策でより具体的な議論になるのではないかな。

参加者：【ハードルが高い】(参加しやすい場づくり・オープンな活動・つながりの促進)については先ほど出た落ちこぼれなど、社会変化に出てきた話題につながるのではないかな。中間組織がキーになると考えると、つながりの強化の中の施策に入りきらないように思う。

参加者：NPO法人等積極的に活動している団体への支援と、落ちこぼれてしまう人への支援があるように思う。つながりの強化の中でその二つを分けて検討したらよいのではないかな。

参加者：既存の施策と話し合っている取組に違いが見えない。そのためにさらにこれをやるべきだと思うものを掘り下げるべき。例えば議論では中間組織と出ているが、施策に落とし込んだ時にコミュニティリーダーに取り込まれてしまうのではないかと考えた。

参加者：施策として言葉にすると、思いが違ってくるように思う。言葉は一緒であっても思いや気持ちが異なれば成果が変わってくる。

参加者：時代に左右されず求められているものは大きく変わらないように思う。新しいものも必要だと思うが、やり方を変えるとか窓口を変えるとかといった方向性の検討になるのではないかな。

参加者：区のマンパワーが足りないのであれば、中間組織に依頼するとか、検討していかないといけない。施策をどう実行していくかが大切。

参加者：前回の提言時にマンションと町会が連携するように提言したが、町会が弱体化し、新しい組織ができないといけないと思った。区の職員のタレント化など前回の意見として出ていたが、どう育てるのか、具体的な案が今回あればよいと思う。

参加者：議論の中で、事務局から現時点で取り組めていない施策や検討してほしいことなどの意見がもらえるといい。

事務局：マッチングや中間組織の取組、コミュニティリーダーをどう育成するかなどは、10年以上前から議論されているが課題として残り続けている。本会で新しい着想や提言等があればそれが、本会の成果となる。事務局としては議論を提言として受け止め、事業展開していく上で検討する。

参加者：新しい公共という言葉があるが、行政にやってもらうというより協働したいと思っている。行政と住民が意見交換をする場をつくるという施策があるとよいと思った。

参加者：行政と対話をしてしまうと制約がついてしまうことがある。意見は自由に出して、受け止められるかどうかは行政に決めてもらえればいい。

事務局：提言と今回の議論で重なる部分があってもその部分は重要な部分になるとも考えられる。一度提言書に落とし込み、詰めていけたらと思う。

4 その他

事務局より次回の開催日程等の確認を行った。

(閉会)

リーダーより第5回グループ会議の閉会を告げ、終了。

以上

みなとタウンフォーラム 地域コミュニティグループ（第4グループ）

会議録（第6回）

■開催日時・場所・出席者

日時：令和4年12月21日（水）18時30分～20時30分

会場：港区役所9階 研修室

メンバー：5名（うち1名はオンライン、欠席者5名）

事務局：対応部門関係課長3名（芝地区総合支所管理課長、高輪地区総合支所協働推進課長（代理）、産業・地域振興支援部地域振興課長）、企画課グループ担当2名、サポートメンバー3名、委託事業者2名

■次第

（開会）

1 第6回グループ会議の進め方について

2 提言内容の確認

・テーマ1「時代変化に応じた地域によるつながりの変革について（町会・自治会、マンション）」について

・テーマ2「人の縁や共通の目的・テーマでのつながりによる地域の活性化について（NPO、ボランティア団体、サークル、サロン）」について

3 その他

（閉会）

■配付資料

資料番号	資料名
1	第5回グループ会議 会議録
2	第6回グループ会議の進め方
3	テーマ1 提言書（案）
3-2	テーマ2 提言書（案）
参考資料1	討議内容とりまとめシート（テーマ1）
参考資料2	討議内容とりまとめシート（テーマ2）

■貸与資料

資料番号	資料名
1	港区基本計画・港区実施計画

■会議要旨

(開会)

リーダーより、第6回グループ会議開催に当たっての挨拶及び開会宣言を行った。

1 前回(第5回グループ会議)の振り返り

第5回会議録に修正がある場合は、12月28日(水)までに事務局へ連絡するよう案内した。
(主な意見等なし)

2 第6回グループ会議の進め方について

ファシリテーターより、配付資料2に基づき、第6回グループ会議の進め方について説明を行った。
また、グループ会議の目的・目標・約束・本日のゴールについて確認した。
(質疑なし)

3 テーマ1「時代変化に応じた地域によるつながりの変革について(町会・自治会、マンション)」 の提言内容の確認

事務局より、提言書の形にまとめたことを説明し、配付資料3についての説明を行った。また、「実現に向けた課題」、「施策の方向性」、「具体的な取組」については、○と□をそれぞれ対応させている旨も案内した。

○現在の町会・自治会

参加者：現状が分からなければ、情報発信してもマンションなどの人は入ってこないかもしれない。

参加者：どうしたら関係づくりができるのか。関心が高まっている人に対しては、情報公開が機能する。災害時対応を考えると、リスク管理としても、分かり合うことを諦めてはいけない。

参加者：「具体的な取組」の中で、町会・自治会だけでなく、「マンション組合」を入れていきたい。

参加者：直近でマンション内から町会長になった人がいる。

参加者：町会の防災とマンションの防災は当然違う。

参加者：町会・自治会だけに注力するのではなく、新しいコミュニティをつくることは重要。

参加者：町会・自治会にツールを渡すだけで終わる気がする。

参加者：町会・自治会のホームページの枠組みは必要だと思う。

参加者：マンション内のコミュニティ形成に行政がどこまで食い込めるか。

参加者：情報提供のツールは、町会・自治会で差が出ないようにするべき。

事務局：提言を基に、来年度、区は施策を考えていく。

事務局：必要な箇所に町会・自治会にマンション組合を含める形で文言は修正する。

参加者：コンシェルジュとの関わりもあるのではないか。

参加者：コンシェルジュは、管理組合と自治会をつないでくれている。

参加者：「施策の方向性」の「情報提供を強化する」、つまりどうするのかを具体的にしてはどうか。

事務局：「具体的な取組」の中で記載がある。先日まとめたシートの縦列のイメージ。

参加者：どうやって若い世代を取り込めるか。

参加者：若年層ではなく、既存の住民や在勤者のイメージ。

事務局：セグメント別に分けて区は考える必要がある。

参加者：町会・自治会、マンションに加え、在勤者も含めていくイメージ。

事務局：それぞれ調整していく。

参加者：「具体的な取組」の「多様な人材をつなぐための支援」の部分、「区民主体の」はとってはどうか。また、「参画と協働」部分、町会・自治会からの情報提供で、「町会・自治会から加入についての」にしてはどうか。

事務局：修正する。

4 テーマ2「人の縁や共通の目的・テーマでのつながりによる地域の活性化について（NPO、ボランティア団体、サークル、サロン）の提言内容の確認

事務局より、提言書の形にまとめたことを説明し、配付資料3-2についての内容確認・説明を行った。

参加者：地域に対する愛着の「不足」ではないイメージ。

参加者：愛着の深さとか。

参加者：課題に外国人に関することがない。

参加者：外国人を受け入れる土壌がないイメージ。

事務局：地域コミュニティにおける外国人で考えてみてはどうか。

事務局：課題の部分に外国人を包含できる言葉を追記する。

参加者：「GRANT」の活用について教えてほしい。

事務局：ここ最近スタートしたばかり。区がコーディネーターとして入っている。地域で活躍している人に入ってほしい。支援者は幅広でよいと思っている。支援者の前提は、企業内のチーム、他地域の方もOK、3か月程度で解決できることを想定している。

参加者：コミュニティリーダーの定義はあるのか。

事務局：明確な定義付けは、逆に幅を固定してしまうことになるので避けている。

参加者：地域の魅力の発信。「魅力」とは何か？をもっと考える必要もある。

事務局：オープン性を高めるコミュニティづくりに向けた支援で、どんな施策をしてほしいか教えてほしい。

参加者：軸を増やすことで閉じないコミュニティが生まれると思っている。

参加者：NPOなど、熱い思いで立ち上がるが、世代交代していかないと持続しない。持続可能な形になる支援が必要。

事務局：NPOには助成金を出している。今後、持続性の視点を入れた審査方法を入れる等もある。

参加者：セルフチェックシートの活用等を使って自主的なチェックをすることもできるのではないかな。

参加者：「場」の提供の観点で、〇〇カフェというのは活用できる。オープンに場を開いておき、コミュニティに入りにくいと思っている人を救い上げる環境を整えておけるのではないかな。

参加者：サークルも難しい。あくまでサークル。

参加者：防災訓練とか、つながり方はいくらでもある。

参加者：かっちりしている入口もあれば、かっちりしない入口もある。

参加者：「参画と協働」の「オープン性の高い団体運営」部分は、どういう文言にするか。この言い換えは、参加者で少し考えるべきではないか。それを区に伝える必要があるため、ぜひ次まで案を検討していただきたい。

事務局：課題部分の表現、「不足」、「充実」等の文言は検討させていただく。

参加者：関心があった上で、愛着が生まれるという流れなのでは。

事務局：次回、修正案をお示しさせていただく。

5 その他

事務局より次回の開催日程等の確認を行った。

(閉会)

リーダーより第6回グループ会議の閉会を告げ、終了。

以上

みなとタウンフォーラム
地域コミュニティグループ（第4グループ）

会議録（第7回）

■開催日時・場所・出席者

日 時 : 令和5年1月11日（水）18時30分～20時30分

会 場 : 港区役所9階 研修室

メンバー : 7名（欠席者3名）

事務局 : 対応部門関係課長4名（芝地区総合支所管理課長、芝地区総合支所協働推進課長、赤坂地区総合支所協働推進課長、産業・地域振興支援部地域振興課長）、企画課グループ担当2名、サポートメンバー2名、委託事業者2名

■次第

（開会）

1 第7回グループ会議の進め方について

2 提言内容の最終確認について

・テーマ1「時代変化に応じた地域によるつながりの変革について（町会・自治会、マンション）」について

・テーマ2「人の縁や共通の目的・テーマでのつながりによる地域の活性化について（NPO、ボランティア団体、サークル、サロン）」について

3 提言に当たって（前文）（案）の確認について

4 その他

・みなとタウンフォーラム提言式に向けた進め方について

・提言式発表者の選出について

（閉会）

■配付資料

資料番号	資料名
1	第6回グループ会議 会議録
2	第7回グループ会議の進め方
3	テーマ1 提言書（案）
3-2	テーマ2 提言書（案）
4	提言に当たって（前文）（案）
5	みなとタウンフォーラム提言式に向けた進め方について
参考資料	提言式プレゼン用パワーポイントイメージ

■貸与資料

資料番号	資料名
1	港区基本計画・港区実施計画

■会議要旨

(開会)

リーダーより、第7回グループ会議開催に当たっての挨拶及び開会宣言を行った。

1 前回(第6回グループ会議)の振り返り

第6回会議録に修正がある場合は、1月18日(水)までに事務局へ連絡するよう案内した。

(主な意見等なし)

2 第7回グループ会議の進め方について

ファシリテーターより、配付資料2に基づき、第7回グループ会議の進め方について説明を行った。
また、グループ会議の目的・目標・約束・本日のゴールについて確認した。

(質疑なし)

3 提言内容の最終確認について

○テーマ1「時代変化に応じた地域によるつながりの変革について(町会、自治会、マンション)」について

配付資料3を用いて、事務局よりテーマ1の提言書(案)における前回会議等からの修正内容について説明した。

○全体について

参加者：意見がくみ取られている内容となっており、問題ないように思う。

参加者：「施策の方向性」と「具体的な取組」を分けて記載されると分かりにくいのではないかと。

○施策の方向性

≪情報提供の強化≫

参加者：「情報提供の強化」については、「提供」と「の」の間に、「態勢」を付け加えたほうが良いのではないかと。

事務局：「情報提供態勢の強化」に修正する。

○テーマ2「人の縁や共通の目的・テーマでのつながりによる地域の活性化について(NPO、ボランティア団体、サークル、サロン)」について

配付資料3-2を用いて、事務局よりテーマ2の提言書(案)における前回会議等からの修正内容について説明した。

○全体について

参加者：発展、進歩するイメージをどこかに入れるといいように思うが、進んでいくイメージが強すぎるように感じるため、難しいとも思う。

参加者：進歩できる人もできない人もいることが、将来像にある「誰もが安心して」に含まれているのではないかと。

○実現に向けた課題

《つながりをつくる機会が少ない》

参加者：「少ない」と変更された部分について、マイナスのイメージがあるとの意見であったが、修正案で問題はない。

○具体的な取組について

《つながる機会の充実》

参加者：『GRANT』の認知度を高め」とあるが、活用を始めているのだから、提言書に記載するまでもなく、活用していくのが前提ではないか。

参加者：GRANTにおける港区公開ページの認知度が低く、つながることの手段にすぎないため、提言書に記載すべきかどうか。プラットフォームの活用として、幅広い記載とした方が分かりやすいのではないか。

参加者：「情報発信」について、実際に企業をどのように紹介させるかが含まれていないが、いいのか。

参加者：「してもらう」ではなく、協働して情報を発信するという記載がいいと思う。区として横のつながりや連携の強化を支援するのがいいと思う。

事務局：「訴求力のある人からの情報発信」について、「地域への愛着の醸成」に移行する案が出たものの、意見を集約し、このまま「つながる機会の充実」に記載することとする。

参加者：「情報発信」については、「地域情報の可視化」に変更してみてもどうか。

参加者：「地域活動をしている中間支援団体などの活動を支援する」について、中間支援団体に加えて、企業等と記載してはどうか。

参加者：「中間支援団体」がイメージしにくい。「地域活動をしている団体等」と表記してはどうか。

事務局：これまでの意見を集約し、「つながる機会の充実」の3点目は、「NPO、地域活動団体、企業などのつながりを支援する。」、4点目は「企業等と協働して、地域活動の可視化につながる情報発信を促進する。」に修正する。

○参画と協働

《「GRANT」の活用》

参加者：「プラットフォームを活用する」と変更する等、「GRANT」自体の表記を削除した方がいい。

参加者：【具体的な取組】で「プラットフォームの活用」と記載することとしたため、「GRANT等のプラットフォームの活用」としてはどうか。

参加者：「GRANT」ではなく、「地域活動団体、在勤者や在学者をつなぐプラットフォームの活用」ではどうか。

事務局：「地域の人・団体の自主的な活動として、地域活動団体、在住者や在勤者をつなぐプラットフォームの活用」に修正する。

○積極的な意見交換

参加者：「積極的に意見交換する」について、「具体的に課題を抽出し可視化する」と追記してはどうか。

参加者：可視化されている意見について話し合うものだと思う。

事務局：「在住者・在勤者等と、区が地域コミュニティの課題について、積極的に意見交換する」に

修正する。

○地域からの魅力発信
(意見なし)

○参加しやすい団体運営

参加者：「参加しやすい団体の運営」ではなく、「参加しやすい場」ではないか。合わせて【具体的な取組】の「活動の場所や機会の確保」についても同様に「場づくりを支援する」とした方が良いでは。

参加者：間口が広くの後に「敷居が低い」を追記した方が良い。

事務局：意見を集約し、【参画と協働】の「参加しやすい団体運営」については、「敷居が低い」を加筆した上で、「場」か「団体の運営」かについては、「団体の運営」のままとする。一方、【具体的な取組】の「活動の場所や機会の確保」の「コミュニティづくり」については、「場づくり」に修正する。

4 提言に当たって（前文）（案）の確認について

事務局より、配付資料4の提言に当たって（案）について説明
(意見なし)

5 みなとタウンフォーラム提言式に向けた進め方について

配付資料5を用いて提言式及び提言式までの流れについて説明。また、参考資料により、提言式での発表用のパワーポイントのイメージを共有。

発表者はリーダーに決定した。

(閉会)

参加者より会議の感想を受けた後、リーダーより第7回グループ会議の閉会を告げ、終了。

以上

